

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(5月9日～5月15日)

2022年7月21日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領は、ロシア軍の対空ミサイルシステム S-400 及び地対地ミサイルシステム「イスカンデル」をベラルーシ領内に残す方向でロシアと調整中である旨発言(5/10)
- 当地ウクライナ大使館前で親ルカシェンコ派が示威行動(5/12)

【ルカシェンコ大統領動静】

●対独戦勝 77 周年記念式典への出席

(1)挨拶

・中世さながらの領土や資源を求める戦いが続いている。外国の基金が伸長し、人権の保護や国の持続的な発展とかいう大義名分の下での侵略が見られる。西側はスラヴ人を、グローバリズムという新たな奴隷制に追いやることを夢見ている。

・西側のエリートは、ウクライナにおいてナチズムを増長させて合法的な政権を転覆させ、ナチズムを同国のイデオロギーとし、兄弟であるウクライナ人とロシア人を衝突させた。

・ベラルーシ・ロシア両国に科されている制裁や制限は、欧米の一般国民にも、我々に対する以上の多大な損失をもたらすことになる。中国、インド、ラテンアメリカ諸国、アフリカ、アラブ諸国は、米国の輪縄にうんざりしており、ベラルーシ・ロシア両国が西側の圧力と戦う様子を見守っている。

・ベラルーシがロシアによるウクライナ侵略に参戦していないことや、停戦に向けて我々が行ったことが無視されている。

・ベラルーシ人にとってロシアを支持しないということはある程度得ない。西側諸国が何を行うとしても、両国を引き裂くことはできない。

(2)式典後の記者会見での発言

・ポーランド領内で大規模な軍事演習が行われているが、我々は本件を注視しており、軍幹部には常に、見過して 1941 年(のドイツのソ連侵攻)の轍を踏まないように命じてきた。

・我々の背後には核大国ロシアが控えており、ベラルー

シ・ロシア両国間には然るべき合意があり、本件につき最近極めて頻繁に露大統領と協議している。

・自国領内で自国領や自らの家族や子どものために戦う人々を打ち負かすことなどできない。

(5/9 大統領府)

●2022 年の国防発注に関する会合

大統領は要旨以下を述べた。

・ベラルーシに展開中のロシア軍の対空ミサイルシステム S-400 を残すことでロシアと合意。フレニン国防大臣に、同システムを使いこなせる複数の部隊を、明日にでも用意するよう指示。

(2)ロシアから地対地ミサイルシステム「イスカンデル」を調達する計画もある。自分(ルカシェンコ大統領)は今一度ロシア人と、彼らから「イスカンデル」を購入することで合意。「イスカンデル」がベラルーシから搬出されることはなく、ベラルーシの空域を防衛するために配備される可能性あり。

(5/10 大統領府)

●グレイズロフ駐ベラルーシ露大使との会談

(1)ルカシェンコ大統領は要旨以下を述べた。

・次回のプーチン露大統領との会談において、輸入代替につき真剣に協議を行う。

・特に電子部品・航空宇宙関連機器・光学機器・電子機器等のメーカーには、ロシアと協力できるだけの十分な素地がある。

・情報技術(IT)分野を両国共同で発展させ、アウトソーシングではなく、ベラルーシ・ロシアで最終製品を作り出せるレベルに引き上げることが必要。

(2) グルィズロフ駐ベラルーシ露大使は要旨以下を述べた。

・対独戦勝はロシア・ベラルーシ両国にとって、歴史的なものを含め、大いに意義のある祝日。ナチスに対する勝利に関する問題全てにおいて、両国は同じ立場。

(5/12 大統領府)

【外交】

●当地ウクライナ大使館前での親ルカシェンコ派による示威行動

・5月12日午後、当地ウクライナ大使館前に自由民主党、共産党、共和国青年同盟(BRSM)、親露政党「連合」等の親ルカシェンコ団体関係者が30名から50名集合して示威行動を実施。

・示威行動の趣旨は、77年前のソ連によるナチスドイツに対する最終的な勝利を西側に想起させるというもので、ソ連国歌等を大音量で再生したり、親ソ連的・親露的なシュプレヒコールを挙げる等した。

(5/12 国営ベルタ通信)

●アレイニク外務第一次官と謝小用・駐ベラルーシ中国大使の会談

・二国間の当面の問題に関する意見交換の他、世界的なイニシアチブの推進、国際場裡における政治面での協調を伴う共同行動や地域レベルの機構を通じた連携につき協議(当館注:当地中国大使館によれば、謝大使から習近平・中国国家主席が提案した世界的な安全のイニシアチブが紹介されたとなっている)。

・両国は、ベラルーシ・中国二国間協力のあらゆる分野に関し、両国間での多極的なパートナーシップを今後とも進展させる用意があることを確認。

(5/12 外務省)

●アレイニク外務第一次官とヨジッチ駐ベラルーシ・バチカン大使の会談

・地域情勢及びウクライナにおける紛争の解決の見通しにつき意見交換。

・ベラルーシとバチカンの連携、人道面での協力、外交関係樹立30周年記念行事の準備等を協議

(5/12 外務省)

●日本と欧州連合(EU)は首脳会談を実施。ルカシェンコ体制がロシアによるウクライナ侵略に荷担していることを非難する共同文書を発出。

(5/12 欧州評議会、BPN)

●G7は外務大臣会合後の共同声明において、ベラルーシに対し、ロシアによるウクライナ侵略への荷担を止めるよう呼びかけ。

(5/14 BPN)

【治安・軍事】

●ベラルーシ軍への国産装備品の配備の見込み

・パントウス国家軍需産業委員長は、国営「ベラルーシ第1チャンネル」の番組で要旨以下を述べた。

・自爆型無人攻撃機(UAV)「チェカン」は、2022年中に部隊配備の予定。

・対空ミサイルシステム「ブク」の近代化改修型は、2023年に試験を実施予定。

(5/14 国営「ベラルーシ第1チャンネル」)

●ラトビア運輸省は、ベラルーシから鉄道でラトビアに直接運び込まれ、ラトビアの港湾を経由して第三国に向かう軍需物資の輸送を禁止。

・1994年に相応の協定が締結されているが、5月10日以降、同協定が失効する。

(5/14 Delfi, BPN)

●未成年者による麻薬の流通・使用への対策

・ペトリシェンコ副首相は、未成年者に対する取り組みに関する会合において要旨以下を述べた。

・2022年に入って以降の3か月の間に、麻薬の流通に関する情報を掲載した1,519のサイトを閉鎖。

・未成年者による麻薬の使用への対策は、学校の保護者会でも取り上げられている。教育機関では、麻薬予防週間等の取り組みも実施。

・麻薬の売買等で検挙された未成年者の裁判は、公開形式で行われている。

・治安機関だけでなく、教育省、保健省、労働・社会保障省やその支部等が一丸となって取り組み。

(5/11 閣僚会議(政府)公式 Telegram)

【経済】

●ミハデューク・エネルギー次官：ベラルーシ原発 2 号機は年内に稼働開始予定

(5/11 国営ベルタ通信)

●「非友好国」からの輸入は総輸入額の 5 分の 1

チェボタリ経済第一次官は、同日開催されたヴィテプスク州の産業全般の振興に関する実務会合において要旨以下を述べた。

・西側企業のロシア市場からの撤退は、ベラルーシの輸出企業にとって、既に大きなシェアを占めているニッチ分野でさらなるシェア拡大を図る好機。

・ベラルーシの物流業者に対するロシア国内での割り当ての拡大、将来的には、自動車輸送及びロシア国内の輸送のための許認可制度の撤廃に向け、ロシアと取り組みを進める。

・対中輸出は年内に 20 億ドルの大台に乗る見込み。

・ベラルーシ国内で生産されている輸入代替製品 3,000 点がリストアップされており、こうした製品の輸出にも大いに伸びしろがある。2021 年の「非友好国」からの輸入は 80 億ドル以上で、この余地を活用する必要あり。

・輸入代替促進のため、ロシアとの緊密な協力を進めるとともに、ベラルーシ・ロシア両国でこれまで生産されてこなかった製品を生産する中小企業に対する追加支援を行う。

・経済支援総合計画では、①労働条件や経費に関して抜本的な変更をもたらす法改正、②中小企業の活動に対する行政手続きや検査等の負担軽減、③許認可の簡素化等、工業・農業・情報通信(IT)の各部門を特に対象とした措置等につき規定。

(5/11 経済省)

●制裁に関するゴロフチェンコ首相の発言

ゴロフチェンコ首相は、アラブ首長国連邦(UAE)のテレビ局「アル・アラビア」のインタビュー(5/14)で要旨以下を述べた。

・制裁の導入によって、ベラルーシやロシアを早期に屈服させるという目的が設定された。

・しかし制裁には、食料の問題、肥料の問題、エネルギー資源の価格高騰、インフレといった裏の面もある。つ

まり、制裁は世界経済全体を揺るがしている。

・欧州では燃料価格や食料価格が高騰している。世界が飢餓の危険に晒されている。それなのに米国やその同盟国は、このことを無視している。

・欧州連合(EU)のセクター別制裁が科された品目があったり、輸出先の切り替えにある程度の時間を要する等の課題があるが、我々はこれに真剣に取り組んでいる。

・しかし、財政収支も貿易収支も黒字であり、主要企業の決算も好調。生産や輸出で損失もあるのだが、世界的な価格上昇も手伝って相殺できている。

・ベラルーシの産業の採算性は平均で 8%~9%であり、これは債務の償還や給与を適切な時期に支払うのに十分。実質収入の落ち込みはなく、社会保障も期日どおりに支給されている。現時点では、ベラルーシ経済は健全。

・制裁に伴い、欧米に輸出できなくなった額は 160 億ドルから 180 億ドル。これほどの額を失うことなどできないため、アジア、アフリカ、中東、ペルシア湾岸諸国等への輸出に切り替えられるよう取り組んでいる。

(5/14 閣僚会議(政府)公式 Telegram、5/15 国営「ベラルーシ第 1 チャンネル」)

●5 月 13 日、フランスの乳製品メーカー「ダノン」は、ベラルーシのテレビ向け広告の停止を発表。

(5/13 BPN)

【その他】

●5 月 9 日、国連人権委員会は、ババリコ元大統領候補の申し立てを受理

(5/18 BPN)

●政治的弾圧に関する統計(2022 年 4 月)

政治的理由による刑事罰 少なくとも 89 人

政治的理由による行政罰 少なくとも 150 人

(5/12 人権団体「ヴァスナ(春)」、BPN)

●5 月 14 日現在の政治犯の数は 1201 人

(5/14 人権団体「ヴァスナ(春)」)

(了)